

研究実施のお知らせ

2025 年 12 月 6 日 ver.2.0

研究課題名

サルコペニアを有する大腸がん患者における術後補助化学療法の有効性・安全性
単施設後方視的観察研究

研究の対象となる方

2015 年 1 月から 2022 年 12 月の間に島根大学医学部附属病院で結腸癌・直腸癌と
診断され、切除術を受けられた患者さん

研究の目的・意義

サルコペニア (sarcopenia) は、「進行性かつ全身性の筋量および筋力の低下」と定
義される病態です。サルコペニアは、高齢者の日常生活動作 (ADL) 低下のリスク因
子となります。最近の研究では、高血圧や糖尿病といった生活習慣病の悪化、癌患者
さんの予後短縮や術後合併症の発生増加に影響を及ぼすという報告もみられます。
年々高齢化が進み、注目されている病態です。

術後補助化学療法は治癒切除が行われた患者さんに対して、術後再発を抑制し予後
を改善する目的で実施されます。サルコペニアの患者さんは、心臓や肝臓などの臓器
機能は十分ですが、潜在的に栄養障害を有すると言われていています。胃がん患者さん
においては、術後補助化学療法の効果の低下や副作用の増加をきたすとの報告がありま
すが、大腸がん患者さんに関する研究は少なく、同様の結果かどうかは不明です。

今回、当院で大腸癌に対する手術を受けられた患者さんを対象に、術前 CT 検査を
用いて骨格筋量の評価を行ない、サルコペニアを診断したうえで、術後補助化学療法
の効果および副作用の発現頻度などをしらべ、今後の治療介入の判断の一助につなげ
ることが目的です。

研究の方法

研究対象者である大腸癌手術患者さんの診療記録から、年齢、性別、身長や体重な
どの身体情報や治療中の血液検査や画像検査の情報を抽出します。術前 1 か月前に撮
影された CT 検査の画像を用いて、骨格筋断面積を測定し、サルコペニアかどうかを
診断します。そのうえで術後補助化学療法の治療効果を統計学的に検討します。

本研究で用いた、個人情報に関する情報は個人を識別できない状態にして取り扱
います。研究対象である患者さんの識別は登録番号によって行い、収集データは、島根

大学医学部 消化器・総合外科学講座内の外部から容易にアクセスできない PC に保管します。PC にはセキュリティを設定し、パスワードで使用可能な研究者を制限し、外部への持ち出しは行ないません。

研究の期間

2023 年 9 月 5 日（研究許可日）～2026 年 12 月

研究組織

この研究は島根大学医学部消化器・総合外科学講座が行います。／この研究は次の機関が参加して行います。

研究責任者（研究で利用する情報の管理責任者）：

島根大学医学部消化器・総合外科学講座 谷浦 隆仁

参加研究機関

[研究機関] [研究責任者]

島根大学医学部附属病院消化器・総合外科 谷浦 隆仁

情報の利用停止

ご自身の情報をこの研究に利用してほしくない場合には、ご本人または代理人の方からお申し出いただければ利用を停止することができます。

なお、利用停止のお申し出は、2025 年 6 月までをお願いいたします。それ以降は解析・結果の公表を行うため、情報の一部を削除することができず、ご要望に沿えないことがあります。

相談・連絡先

この研究について、詳しいことをお知りになりたい方、ご自身の情報を研究に利用してほしくない方、その他ご質問のある方は次の担当者にご連絡ください。

研究責任者：

島根大学医学部消化器・総合外科学講座／附属病院消化器外科 谷浦隆仁

〒693-8501 島根県出雲市塩冶町 89-1

電話 0853-20-2232 FAX 0853-20-2229